

ふる里の歳時記 (123)

写真と文：厚川 小一（エッセイスト）



春空の下で

肝病みて露のとうに牙向くる 厚川小一

トトした「俳句のある風景」は七二〇号で打ち切ったが、葉信抄時代から合算すると一、七〇〇回で、差し立てたハガキの総計は二十一万枚を越えた(このことはすでに掲載済み)。文章の書き始めに俳句から入っていくと季節感が容易につかめるからである。

紅梅の輝く中に明日がある

大谷徳子

紅梅は庭木でも同じものながら、白梅とでは違った感じを受けるものがある。白梅の清らかな感じに対して、紅梅の紅色には、温かさや色けがある。

わが家には寒紅梅、さらに赤味の強い寒緋梅があり、二月早々に咲き出すが庭に古木の白梅があるので紅梅は何かすつきりしない感じがする。紅梅を指して、俗っぽい学者や尼僧を見るような感じがすると、ある書に出ていた。私もそう見ている。

そうした中で、中間色の杏の花に似た品種がある。豊後梅である。町の中にも何本か見られる。わが家にもあったが、国道の拡幅で失った懐かしい一本である。淡いピンクの上品な花で、かの

鶯宿梅の故事もこの梅の木ではないかと思われる。

それは村上天皇のころのことである。邸内の清涼殿にあった古木が枯れたので、帝はほうぼう古雅な梅の木を探し求めたところ、西の京の寂しいところの破れた門のそばに、よい紅梅があったので吏人が行って勅命を伝えたところ、その家のあるじであった美しい婦人は、さすがに拒むことはできず、

勅なればいともかしこし鶯の宿とは問はばいかに答へむ

という和歌を添えて梅を献じた。帝はこの歌をこらんになつて、この婦人の才能の優れているのを褒められ、使を出して調べさせた。この婦人は紀貫之の娘であった。それをくいて帝は、この梅の木を返したという。

※鶯宿梅は文士が書いたもので実在していない、豊後梅のことであろうと解されている。

風の息うかがってをり杉の花

早川達之助

今年は例年より杉の花粉が多いと予報(昨年約5〜10倍)が出ている。私など花粉症とは縁がない。

かつたのだが齢を増すごとに免疫力の低下からこの季節の悩みごとになってきた。杉の木の下の育ってきたのに、なぜと最初は思っていたが花に負けてしまうなんて情けないことである。なるべく家にもついているしかない。

野蒜食む祖母が形見の長寿紐

金子睦子

かつて私が仕事に出ているところ、現場が野に面したところになると、弁当に味噌だけ持つてくる職人がいた。野蒜を抜いてきてそのまま食べるのである。ユリ科ネギ属であり、少し辛いが栄養があり、これで十分だよといっておられた。

北海道に旅したとき、知床の民宿で、これに似たギョウジャニンニクを試食したが野蒜とやや似た味がした。アイヌ族は、これを精力剤としてよく食べたといっている。

また、中標津(東北道)の養老牛温泉では、朝食に取り立てのギョウジャニンニクが膳に出た。野と山の違いだが、野蒜はまだ取れるので風邪の予防などにおすすりめである。

ひとりごと From editors

▼そろそろ春になりますね。2月は寒い日が多かったので早く暖かくなってほしいです。皆さんは春になったと感じる瞬間はどんなときですか？花見が気になったり、つくしやタンポポ、菜の花などの草花が咲き始めたり、また空気が暖かくなったりしたときなど、春を感じる瞬間はいろいろあると思います。私が春を感じる瞬間はくしゃみが増えたときですね(≥△≤)3ヘックション。こう感じる人も少なくないと思います。▼春は花粉症の人にとっては辛い時期です。3月の中旬ころには、高校入試があります。受験生の皆さん、今まで勉強してきたことをすべて出しきって、ラストスパート頑張ってくださいね。(清)



Photo 広報担当者

まのちの風景

春の訪れを告げる菅原神社の梅(石打)



広報おうら

ORA TOWN Public Relations

平成23年3月号 No.534

毎月1日発行

編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692 (住所記入不要)

☎0276-88-5511 (代表)

☎0276-47-5007 (企画課直通)

☎0276-89-0136

URL <http://www.town.ora.gunma.jp>

E-mail kohoo@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト

2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。

携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>

